



すえちゃん

しりょうかんだより



どうたくん

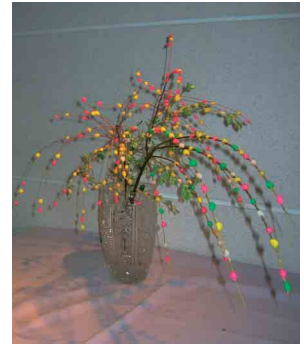
No.12

冬休みこども週間「お正月のあそびを楽しもう！」

郷土資料館では、12月23日（金）～1月9日（月）に冬休みこども週間「お正月のあそびを楽しもう！」を開催します。10時～16時の間 26日（月） 28日（水）～1月4日（水）お休み
こままわし・ふくわらい・羽子板・すごろくなどむかしながらのお正月の遊びを体験できます。また期間中、こまや紙の竹とんぼなどを作るコーナーもあります。ぜひ あそびにきてください。

きかく展「養蚕がさかんだった頃」開催中！

1月15日（日）まで、きかく展「養蚕がさかんだった頃」を開催しています。養蚕とは、生糸・絹糸を作る原料になるまゆをとるため、蚕を飼うことです。みなさんのおじいちゃんやおばあちゃんが子どもの頃には、蚕のえさの桑畑がたくさんあり、蚕を飼っていた農家がたくさんありました。展覧会では、蚕を飼うための道具、桑の葉を集める道具、まゆから糸をとる道具を見ることができます。蚕を飼っているようすの写真や糸をとる工場の古い写真もあります。こちらも いっしょに見てください。



花もち



とよたのれきし(近世3)

「^{ころもはん} 拳母藩 ^{ないとうけ} と内藤家」



七州城図(市指定文化財)

江戸時代、^{ころもちく} 拳母地区を中心とする村々は^{ころもはん} 拳母藩がおさめていました。^{ころもはん} 拳母藩(最初は^{ころもはん} 衣藩)の殿様は、はじめ三宅家(1604年～1619年)、次に本多家(1681年～1749年)、そして内藤家(1749年～1871年)でした。

^{ころもはん} 拳母藩で最も長く殿様であった内藤家は、2万石の大名で^{かんえん} 寛延2年(1749年)に^{こうずけのくにあんなか} 上野国安中(現在の群馬県安中市)から^{ころも} 拳母へ来ました。内藤家は城持ち大名であったため、すぐ

に^{ころもじょう} 拳母城(桜城)の建設が進められました。しかし城は、矢作川に近く何度も洪水や台風の被害にあい、二代藩主学文の時に、城の移転を願い出ました。^{たかだい} 高台に建てられた新しい城も正式名称は拳母城でしたが、もとの城と区別するため^{しちしゅうじょう} 七州城と呼ばれました。この名はここから三河国をはじめ信濃・美濃・尾張・伊勢・伊賀・近江の7カ国の山が見えた事によります。城の様子は七州城図を見ると大きな^{てんしゅかく} 天守閣はなく、殿様の住む御殿を中心に、^{さむらいやしき} けらいの住む侍屋敷、藩士の学校・崇化館などがありました。現在は^{すみやくら} 隅櫓の石垣だけがのこされています。(隅櫓の建物は、昭和53年の再建です。)



七州城隅櫓(市指定文化財)

また城下町に面した大手門の上には大きな^{しゃち} 鯰がありました。内藤家は、明治時代になるまで拳母藩の殿様でした。

きせつのはなし —花もち—

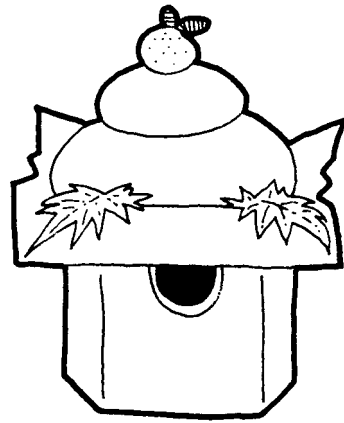
花もちを知っていますか？

「花もち」は雪深くきびしい冬に花が少なくなる雪国の人々がつくりだした正月用の飾り物です。

木の枝に色をつけたおもちを花のように飾りつけたもので、高さ30センチのものから3メートルほどの大きなものまであります。

はじめは、はっきりわかりませんが、養蚕がさかんな地方でまゆ玉を木の枝につけて正月飾りにしたこととか、鏡餅をたくさんの神様に供えるかわりに、小さなもちを枝にたくさん付けたからとか、さまざまにいられています。いずれにしても人々は豊作をねがい、福をまねく縁起物として飾りました。

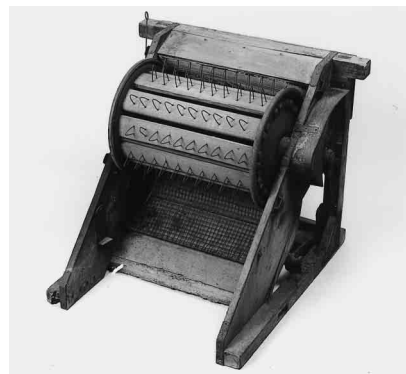
さて、飾り終わった花もちは冬の間中飾って、ひなまつりには枝からもちはずし、油で揚げてあられにして食べたそうです。



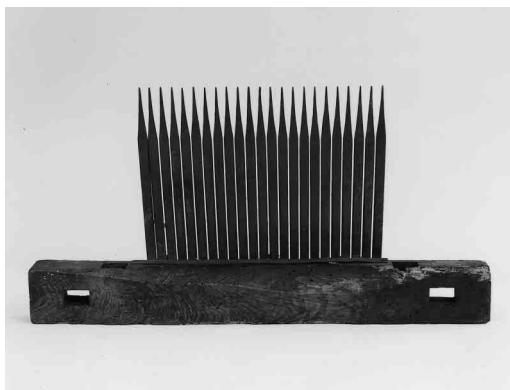
民具 M I N G U

足踏み式だっこく機

稲穂から、もみ（稲の実）を取る道具です。足でペダルをふむと丸いドラムが回転します。ドラムに付けられた針金に稲穂をからませると、もみが取れます。江戸時代にはするどい歯がたくさんある千歯こきという道具をつかってだっこくをしていました。



足踏み式だっこく機



千歯こき

しりょうかんだより No.12

平成17年12月12日発行

編集・発行 豊田市郷土資料館

〒471 0079 豊田市陣中町1 21

でんわ 0565 32 6561

URL <http://www.toyota-rekihaku.com>

E-mail rekihaku@city.toyota.aichi.jp

郷土資料館では、みなさんが住む豊田市の歴史を紹介したり、大事な資料を集めたり、遺跡の発掘調査などを行っています。